

抽出成分利用研究会講演会概要

「物質と認知の科学」

研究会メンバーの多くが得意とする化学の話ではなく、動物の認知や心理、そしてその研究法について専門家の講演を頂きます。

2017年3月19日（日） 13:30～

於 九州大学農学部キャンパス 一号館218室

1. 13:30-14:20

「においを脳科学的にはかる・わかる」

九州大学基幹教育院 岡本 剛

座長 九州大学農学研究院 藤田弘毅

視覚や聴覚に比べ、嗅覚の解明は遅れている。匂いの感覚情報がどのように脳の関係部位内・部位間で処理・伝達されているかは、「ほぼほぼ」不明である。しかし、世界の脳科学者はあまり嗅覚をやりたがらない。その理由は、モノである匂い刺激は精確な扱いが難しく、さらにヒトでは順応や馴化の統制が難しいという技術的問題にある。本講演では、まずヒト嗅覚の神経生理学を外観したあと、上記の技術的問題について具体的な計測手法とあわせて解説し、我々が行った過去の研究と最新の研究を紹介する。

2. 14:30-15:20

「認知心理学からみた好き嫌い」

九州大学基幹教育院 山田祐樹

座長 山形大学農学部 芦谷竜矢

好き嫌いはヒトの行動に強く影響する感情である。これまで嗅覚刺激などの様々な要因がこれを変調することが分かっている。本講演では講演者たちが行ってきたにおいの効果などを含む認知心理学的研究を紹介する。

3. 15:30-16:20

「線虫 *C. elegans* を用いた嗅覚系の基礎研究からがん検査への応用まで」

(株) HIROTSU バイオサイエンス 研究開発部門 ○魚住隆行、
九州大学大学院理学研究院 広津崇亮

座長 岩手大学農学部 小藤田久義
嗅覚の優れたモデル生物である線虫 *C. elegans* を用いた基礎研究から、線虫が
がん患者の尿の匂いを識別する現象とその応用までをご紹介します。